

# 震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

## 経過報告レポート Vol.1 (2011.3.11-6.11)

### 1 緊急の被災者支援から中長期の復興支援へ

震災から3ヶ月が経過しました。3/13にスタートした、ETIC「震災復興リーダー支援プロジェクト」は、短期・緊急の被災者支援を継続しつつ、中長期的な復興支援活動にも取り組み始めています。

①緊急・短期:被災者支援  
(震災弱者支援のためのコーディネート機能の確立)

②短・中・長期:被災地で復興活動に取り組む  
リーダーの支援  
(復興リーダーを支える「右腕人材」の派遣)

③中・長期:新たな震災復興リーダーの育成・輩出  
(産業再生・地域再生を担う新たな起業家の支援)

### 2 【活動経過報告①】 緊急・短期の被災者支援活動

#### (1)被災者支援プロジェクト「つなプロ」への参画

3/14に宮城・関西・東京の複数団体が連携して始まった被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)に幹事団体として参画し、震災弱者支援のためのコーディネート機能の確立に向けて活動して参りました。

「つなプロ」とは、阪神大震災の際には、避難所や仮設住宅に移ってからの死者が数百名規模で出たことを踏まえ、震災弱者(高齢者、難病・精神疾患患者、乳幼児、妊産婦等)の特別なニーズにも対応していく体制づくりを目指した活動です。

のべ378人のボランティアが3/29-5/1の計33日間に、宮城県内443箇所の避難所を、計965回巡回訪問。「避難所から、これ以上の状況悪化者を出さない」ことをミッションに、避難所での課題・困りごとを「発見」し、専門NPO、特殊物資などと「つなげる」活動を展開しました。



避難所でのアセスメント活動。原則3名体制で避難所を訪問。



宿泊先のお寺に戻り、アセスメントデータを入力するボランティア。

#### ■「つなプロ」の主な成果

・ニーズ発見数:505件(うち、少数の震災弱者のニーズ:232件)  
・マッチング数(完了および手配済み):115件(5/10時点)  
(例)ADHDの3歳女兒がいる。多動で夜叫等があり、周囲の人が困っている。

→みやぎ発達障害サポートネットより紹介された発達障害の子ども支援専門家らのグループが避難所を訪問。  
(例)要介護者1名がストマ(人口肛門)を付けている。しかし、震災後、該当者のサイズにあう備品のストックが残りわずかである。  
→ストマの型番を聞いたのち、CLCにつないでストマの手配と看護師の派遣を依頼。東海大学医学部の医療チーム(石巻赤十字と連携)にも伝え、今後のフォロー体制も確立。

#### ■「つなプロ」へのリーダー派遣、右腕スタッフ派遣

3/17-5/1までの期間、ETICは現地仙台本部長やエリアマネージャーなどを中心に、東京の社会起業家やETICプログラムのOBなど、15名を現地に派遣。彼らの活動を支えるための人件費として、震災復興リーダー支援基金より、4,073千円をつなプロに拠出致しました。

5月以降は、避難所の統合や仮設住宅への移動、更には自宅避難者の増加などを踏まえて、宮城県全域での活動から、市町村単位での地域密着型の活動へと移行しています。現在、気仙沼市、南三陸町、石巻市を中心に、地元団体と連携しながら「アセスメント」および「マッチング」を継続しており、ETIC.としても、この地域展開を支えるために、各エリアリーダーのもとに、右腕スタッフの派遣を行っています(8月末までを予定)。

#### ■新たなプロジェクトを立ち上げる若者たち

現場でのボランティア経験をきっかけに、新たなプロジェクトを自ら立ち上げる若者たちが出てきています。

石巻市でエリアマネージャーを担う稲葉隆久氏(29歳)は、石巻駅近辺に事務所を構え、3名のスタッフとともに地元の中学生たちの学習支援、居場所づくりを行っています。避難所での生活を余儀なくされている子供たちも含まれており、彼ら彼女らにとっては、避難所を離れ、同世代の仲間や少し年上の先輩たちと一緒に過ごせるこの空間が心の支えになっているようです。NPO法人カタリバの元理事である稲葉氏は、中学生・高校生の支援に携わってきた経験を活かし、今後、この活動を発展させ、被災により自信や将来の夢を子供たちが失わないような取り組みを展開させていくことを目指しています。



寺子屋には、現在20名ほどの中学生が通う。



子どもたちは自分で学習計画を立て、それをサポートする。

他にも、石巻市北東部の牡鹿半島で魚網修繕用の特殊な糸でのミサガ作りや鹿の角を使った工芸品作りなど、地元漁師の主婦らによるスモールビジネスの支援に関わる者や、バウチャー制度を活用した被災児童・生徒たちの学習環境整備の事業の責任者になった者など、「つなプロ」に中核として携わったメンバーたちが、復興に向けて中長期的な視点に立った、新たな役割を担い始めています。

## (2) 救援活動に取り組むリーダーへの活動助成

震災発生から2日目。現場は混沌とし、食料もほとんどない状況の中、マルシェジャパン仙台(直売市場)を運営していた株式会社ファミリア代表取締役・島田昌幸氏(28歳)は、関係のある農家などの協力を得て、有志で炊き出しを敢行。「町がバイオハザードみたいな状況で、最初はヘビー過ぎて社員は連れていけなかった」(島田氏)という状況の中、瓦礫をかき分け食事を届け続け、3月末までに2万食以上の炊き出しを実施しました。

ETICは島田氏が大学卒業後に独立した時から連携・協働関係にあり、震災発生から4日目に彼から届いた、「とにかく食料を送って欲しい」という応援要請を受け、全国の仲間呼びかけ、食料品を中心とした物資支援を実施しました(運送協力:株式会社ウインローダー)。

4月以降は、栄養の偏りを危惧した野菜によるおかずを中心の炊き出しや、原発事故の影響により支援の手が行き届いていなかった福島県相馬市への炊き出しを始めています。また、仙台市内での物資拠点となる倉庫運営も引き受けるなど、緊急時において、現地でリーダーシップを発揮し続ける島田氏に対して、その活動を支えるための資金面での支援も行いました(震災復興リーダー支援基金より300万円を助成)。



4月3日までに39箇所まで炊き出し累計2万食を配食。届けた救援物資は71トンを超える。



必要とされている場所に趣き、野営式で、避難所に入れない人たちに物資の支給や炊き出しを実施。



仙台市内の本拠地にて物資と支援金を募集。



5月からは仙台市郊外にWFPの協力を取り付け3基のテントを物資拠点として運営管理。

現在は、環境・福祉・防災による復興プロジェクト「農林漁業六次産業化モデルファーム(通称Rokuプロジェクト)を名取市内に準備中です。加工工場と蕎麦・パン屋などの販売店を一つの敷地内で運営、震災で仕事を失った人たちが障碍を持った人たちへの雇用創出を目指しています。



自分は震災で生かされたのだから、動かないわけにはいかない、と話す島田氏。名取市内のプロジェクト建設予定地前で。

## (3) ETIC.インターンOBOGが震災復興活動へ

大学生や若手社会人を対象に行っているETIC.のインターンシッププログラムに参加し、社会への志や起業家精神を磨いたOBOGたちが、この未曾有の大災害に自身の出番を感じ、震災復興の活動に参画してくれています。

渡部慶太氏(27歳)は、カンボジアで震災発生ニュースを聞ききました。勤めていた商社を辞めた後、ETIC.の「次世代社会イノベータープログラム」を通じて、NPO法人かものはしプロジェクト(児童買春・売春問題に取り組むNGO)のカンボジアオフィスで、プロジェクトに参画している最中のことでした。3月末の契約期間修了を受けて仙台入り。マネジメント能力が評価され、つなプロの宮城県北担当事務局として、最前線の活動を支えています。

池上貴之氏(25歳)も、ETIC.の「地域イノベータープログラム」に参加中、沖縄伊是名島で震災発生ニュースを聞きました。彼も渡部氏と同様に、3月末の契約修了から2日後には仙台入り。つなプロの心臓部とも言える「マッチング班」の中核メンバーとして、現場が拾ってきた震災弱者たちのニーズを、専門NPOや医療機関とつなげる役割を担っています。その活躍の様子は、日本経済新聞社のWeb版で記事にも取り上げられました。



マッチング班の中核スタッフとして約3ヶ月活躍した池上氏(写真左)



4/9～現在もRCF災害支援チームに派遣中の丸山氏。

丸山盛嗣氏(27歳)は、学生時代にベンチャー企業の公開準備室でインターンシップを経験したOB。就職したIT会社に2ヶ月間の休職を申し出て、被災地のニーズ分析を行うRCF災害支援チームの活動に右腕スタッフとして参画。被災地で収集したアセスメントデータをもとに、政府・地方自治体向けの分析レポートを発信。TV番組でもレポートが基礎データとして活用されるなど、貴重なフルタイムスタッフとして活躍しています。

### 3 【活動経過報告②】短・中・長期：地域再生・産業再生への「右腕派遣」開始

#### ■ 3年間で50プロジェクトに100名の右腕派遣へ

現地は災害復旧のフェーズから、少しずつではありますが復興のフェーズに移りつつあります。現地の震災復興リーダーたちによる被災地でのコミュニティ再生・産業復興への取り組みが立ち上がり始めています。

これから東北では、リーダーたちとともに動き、復興を力強く支えていく多くの若者の力が必要になってきます。

そこで震災復興リーダー支援プロジェクトでは、このリーダーたちを支える「右腕」の派遣を、今後の復興に向けたセンターピンと考え、3年間で50プロジェクトに100名の右腕スタッフ(期間: 3ヶ月~1年程度)を派遣することを目標に設定しました。

#### ■ 5/30に「第1回右腕スタッフ派遣説明会」を開催

第一段階として、5月6月の2ヶ月間で、25名の新規派遣を目標に「右腕派遣」を本格開始しました。5/30には、被災地で取り組む6件の新規プロジェクトを対象に「第1回右腕スタッフ派遣説明会」を緊急開催。会場には32名の大学生・若手社会人の方々に参加し、被災地から駆けつけた各プロジェクトのリーダーたちの話に耳を傾けていました。

その後、希望者との個別面談を実施し、続々と右腕スタッフとしての派遣が始まっています。

派遣している右腕スタッフたちには、月額10万円~15万円(最大年間180万円)の活動支援金を、震災復興リーダー支援基金から助成し、現地での活動をサポートしていきます。

#### ■ 22名の「右腕スタッフ」を新規派遣開始

現在、「地域再生」「産業復興」「中間支援」のプロジェクトに対し、22名の「右腕スタッフ」の新規派遣を開始しています。

「右腕スタッフ」派遣を本格的に開始して以来、毎週のように、被災地から「うちにも右腕スタッフを派遣してほしい」という要望をいただいており、短期ボランティアだけではなく、事業・プロジェクトをとくにパートナーとしてマネジメントしていく人材の必要性を、改めて強く感じています。

#### ▼ 派遣先プロジェクトの選定基準

- ①他団体・他地域のモデルとなるプロジェクト
  - ・特定の地域(旧市町村単位など)のコミュニティ再生に向けて、継続的・戦略的シナリオを持つプロジェクト
  - ・産業復興につながり、社会的イノベーションや新たな雇用創出が期待されるプロジェクト など
- ②被災地の復興を加速させるレバレッジが期待されるプロジェクト

#### ▼ 地域再生関連プロジェクトへの「右腕スタッフ」派遣

つなプロ: 気仙沼大島、南三陸町、牡鹿・雄勝、石巻の4拠点	
概要	被災者支援を行うつなプロの地域展開。地元の団体と連携し、被災者を継続的に支える仕組み作りを目指す。
人数	14名(休学中の大学生や若手社会人中心)
役割	各拠点リーダーの右腕として、避難所運営補佐、地区のボランティアセンター事務局、地元大学生ボランティアのマネジメント、地域のキーパーソンとの関係構築など

寺子屋・「ほっとスペース」プロジェクト@石巻	
概要	被災地での学習サポートと、2~3ヶ月のユースプロジェクト(イベント)を組み合わせた、中・高生向けのキャリア教育プロジェクト。「居場所支援・学習支援」(寺子屋)×「チャレンジ支援」(ユースプロジェクト)を通して、中高生が自立的に社会に関わっていくきっかけをつくっていく。
人数	2名(元NPO職員、休学中の大学生)
役割	寺子屋「ほっとスペース」プロジェクトの運営事務局として、「居場所支援・学習支援」の実施。

ハタチ基金プロジェクト@被災地全域	
概要	日本財団・NPO法人カタリバ・NPO法人ブレンヒューマニティ・NPO法人フローレンスなどが協働で展開。震災の年に生まれた子供が二十歳になるまで支援することをテーマに、学習支援・子育て支援などを実施。
人数	1名(通訳・翻訳のプロフェッショナル)
役割	事務局広報担当

#### ▼ 産業復興関連プロジェクトへの「右腕スタッフ」派遣

牡鹿産業復興プロジェクト@石巻市牡鹿	
概要	地元漁師によるわかめ養殖(わかめは半年未満で養殖可能)、水産加工業者の缶詰回収・販売(既に楽天スタジアムの開幕戦で1時間半で1千個の販売に成功。まだ30万個以上の缶詰が津波の泥の中に埋もれている)、地元主婦たちとともに取り組む鹿の角を使った工芸品の製作・販売等、被災地から地元の方々が一歩ずつ自立に向けて歩みだすための、小規模ビジネスを展開中。
人数	1名(3月末に大学卒、海外大学院進学を1年延期)
役割	プロジェクトの推進メンバーとして、ボランティアマネジメントや広報業務など事務局業務

一般社団法人東の食の会@東京・被災地全域	
概要	震災や風評被害に苦しむ東日本地域の農業・漁業・畜産業生産者を支援すべく、外食・小売・中食などの食関連企業とつなげて販売支援するプラットフォームを設立。マッチング事業のほか、個別製品の販促キャンペーンやイベントの開催、食の安全・安心に関する情報発信、海外における日本食ブランド復活のための活動などを行っている。5年間で200億円の経済効果創出を目指す。
人数	1名(外資系金融勤務)
役割	一般社団法人設立に向けた事務局業務全般

#### ▼ 中間支援プロジェクトへの「右腕スタッフ」派遣

Hike ORIZURUプロジェクト@東京	
概要	ソーシャルアプリを活用した、被災地支援のチャリティプラットフォームサービス。
人数	3名(ETIC.インターンOBOGの現役大学生)
役割	被災地支援チャリティプラットフォームサービスのプロモーション全般

## 4 ご寄付・ご協賛等の状況報告

現在、国内外の皆様より、総額65,241,000円のご寄付をいただいております。ご寄付いただいた皆様に、この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

ETICは本プロジェクトの推進にあたり、信頼資本財団と共同で「震災復興リーダー支援基金」を立ち上げ、寄付を募っております。いただいたご寄付は、その全額が「震災復興リーダー支援プロジェクト」に活用され、被災地の復興のために使われます。(本基金は、寄付金控除の優遇措置の対象となります)

### ■ チャリティイベント

ETICのインターンシップ事業への参画や、若手社会起業家へのオフィス提供などでご支援いただいているビジネスバンクの浜口社長より、同社が開催するチャリティセミナーの寄付先として、震災復興リーダー支援プロジェクトをご支援いただくこととなりました。

5/14に800名以上の方が会場にお越しいただき、私どもの活動の経過報告もさせていただきます。開催までのご準備に奔走された皆様、また当日ご来場いただいた皆様に、心より御礼を申し上げます。

「起ち上がれ東日本！」復興支援チャリティセミナー

<http://www.bbanc.jp/charity/>



また、浜口社長のご紹介により、キクタス代表の早川様が開催されたチャリティイベントの寄付先にもご指定いただきました。

「人生を変える一冊 Live vol.1」

<http://kiqtas.jp/book/live.html>

### ■ ご寄付の活用状況

つなプロの現地仙台本部長やエリアマネージャーとして、東京の社会起業家やETICプログラムのOBなど、15名を現地に派遣。3/17から5/1までの彼らの活動を支えるための人件費として、4,073千円を拠出致しました。

被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト

<http://www.hnpo.comsapo.net/portal/tsuna-pro/portal.index>

2万食以上の炊き出しを宮城県や福島県内で配食、現在、農林漁業の六次産業化プロジェクトを推進する株式会社ファミリア代表取締役島田昌幸氏へ活動助成として300万円を拠出致しました。

株式会社ファミリア

<http://fmla.co.jp/>

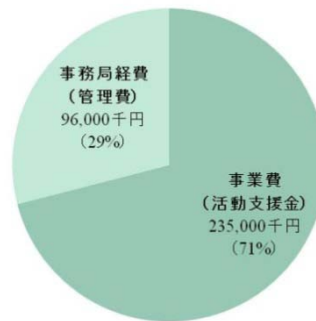
### ■ 今後の予算の見通し

今後は、派遣を順次開始している「右腕スタッフ」への活動支援金として活用して参ります。6月11日時点での派遣者数は20名、宮城県内および東京都内で各プロジェクトの右腕として、活動を続けています。

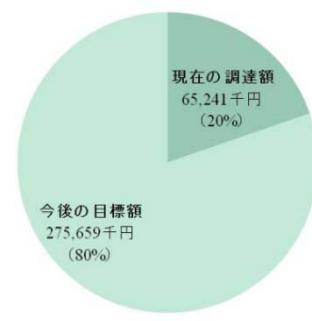
また、14件のプロジェクトで新たな右腕スタッフを募集しています。7月6日には「キックオフフォーラム & マッチングフェア」として、プロジェクトリーダーと右腕としての参画を検討している若者との交流の場を開催する予定です。

現在、本プロジェクトは、以下の見通しを立てています。3年間で100名の右腕スタッフへの支援をするために、2014年3月末までに331,000千円の予算を計画しています。

#### ■ 支出



#### ■ 収入



上記とは別に、2012年に向けて、「新たなリーダー育成・輩出」のための資金調達も進めていく予定です。引き続き、皆様からのご支援をお待ちしています。

### ■ ご寄付のお願い

ETICは本プロジェクトの推進にあたり、信頼資本財団と共同で「震災復興リーダー支援基金」を立ち上げ、寄付を募集致します。いただいたご寄付は、その全額が「震災復興リーダー支援プロジェクト」に活用され、右腕スタッフを通じて、被災地の復興のために使われます。

口座開設の準備が整いましたら、また改めてWeb等でご報告いたします。なお、本口座を通じてのご寄付は、寄付金控除の優遇措置の対象となります。

信頼資本財団

<http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/>

### 連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC内

震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局 (担当: 山内・辰巳)  
東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail: [fukkou@etic.or.jp](mailto:fukkou@etic.or.jp)

Web: <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>